



独立行政法人 国立病院機構 高知病院  
まるさ行こ  
ますこれいも私  
。とる地つ達  
を病域たは  
目院に医  
指と信療心  
しな頼をの  
基本理念

編集●独立行政法人国立病院機構高知病院広報誌編集委員会／代表●大串文隆／住所●高知市朝倉西町1丁目2番25号／電話 088-844-3111／FAX 088-843-6385

## 逆境の中で病院を発展させるために



NHO高知病院 院長  
大串 文隆

病院を取り巻く環境は短期間の間に大きく変化してきており、平成30年度の診療報酬改定が予定されている中、病院経営はより一層厳しい状況になることが想定されています。このような医療環境の中でも高知病院は時代の要請に応えていかなければなりませんが、そのためには地域の皆さんに信頼される病院になることが不可欠です。地域に信頼される病院になるには地域の皆さんに病院を知ってもらうことが重要で、そのため今年も5月20日に第9回の健康フェスタを開催しました。今年のテーマは「つなげよう健康の輪、つながろう地域の輪」で500名近くの人々がフェスタに足を運んでくれました。例年のように体験コーナー、こどもコーナー、展示コーナー、パネル展示、スタンプラリー、販売コーナーなど様々な企画をたてましたが、参加された方々には高知病院を身近に感じていただけたと思います。この企画に際し高知市消防局、高知南警察署、JAコスモス、高知大学教育学部附属特別支援学校の皆さんには多大なご協力をいただき感謝しております。また、健康フェスタの開催に合わせ市民公開講座を例年実施しておりますが今年は「身边にあるがんのお話」というテーマで呼吸器科の畠山先生から肺癌について、泌尿器科の佐竹先生から泌尿科関連の癌について、外科の福山先生から乳癌についての話があり多くの方が聞きにこられ、がんについての情報の提供ができたものと思っております。また、オープニングでは朝倉中学吹奏楽部、エンディングでは高知大学教育学部音楽系コースの教員・学生の皆さん、高知病院附属看護学校の学生有志の皆さんが素晴らしい

しい演奏やコーラスを披露していただきフェスタを盛り上げてくれました。病院職員、看護学生の皆さんには土曜日にもかかわらず多数の方がボランティアとして参加しフェスタ運営に協力していただき本当にありがとうございました。病院行事に積極的に参加してくれる職員の、この団結力が高知病院の強みだと思います。先日、日本慢性期医療協会会长の武久洋三先生の講演「経営・治療・栄養管理・2018年診療報酬改定～慢性期医療での検証～」を聴く機会がありました。急性期病院は慢性期の病院の動向を理解しておく必要があると実感しました。全国に9,000床近くの病床を持つ病院群を経営している先生の話は非常に説得力があり私達の病院の置かれている立場も非常に厳しいことを実感しました。国立病院機構の病院は県立病院、市立病院などが行政から補助をうけているのに対し独立採算で運営をしていかなければなりませんので民間病院と同じ立場です。武久先生が行政からの支援のない民間病院はしっかりと今後を見据えて方向性を決めなければ病院はつぶれると話されていましたが、このことは高知病院にもあてはまることです。病院は利益を得ることが目的ではありませんが、良質な医療を提供するための経営基盤の確立は最も重要です。医療を取り巻く環境はこれから益々厳しくなり運営ができなくなる機構病院もあるかもしれません、職員個々がこの状況を理解し高知病院の強みである団結力をより強固にし、この逆境を乗り越えて行きましょう。

# 日本呼吸器学会 中国・四国地方会での 受賞について



呼吸器内科医師 今西 志乃

昨年12月23日に岡山県で開催された、第56回日本呼吸器学会中国四国地方会に演者として参加して参りました。後期研修医が集うセッションでの演題発表で、【肺癌との鑑別を要し、外科的肺生検で診断された限局性肺胞蛋白症の1例】という演題で口頭発表を行いました。肺胞蛋白症とは、ガス交換の働きをする肺胞の中に、サーファクタント（表面活性物質）が異常に貯留し、換気が低下することで次第に呼吸困難感を引き起こす疾患です。呼吸器領域の疾患の中ではまれなもので、原因としては先天性、血液疾患などに合併する続発性、特発性のものがあります。通常は、肺野全体に起る疾患ですが、今回発表させて頂いた症例は、肺の一部に限局した結節影であり、画像からは当初悪性疾患が疑われておりましたが、最終的には呼吸器外科での肺部分切除術により、限局性肺胞蛋白症という非常にまれな疾患の診断に至りました。

当院では、検診発見等の胸部異常陰影に対し、超音波内視鏡を用いた気管支内視鏡検査での診断を積極的に行っております。超音波内視鏡を併用することにより、以前は診断が得られなかった小さな病変の診断率も向上しています。また、内科的に診断が得られない症例は呼吸器外科との連携で、外科的診断をすることも可能です。当院呼吸器センターでは、多彩な呼吸器疾患の診療を経験させて頂き、学会発表の機会も多く頂いています。今回の発表では有難いことに優秀演題賞を受賞させて頂き、日頃からご指導頂いている指導医の先生方はもちろん、円滑な診療にご協力頂いているコメディカルの皆様、そして患者さまに感謝の意を表したいと思います。今後も診療を通して得られた貴重な経験を学会発表や論文作成を通じて発信できればと考えています。



# 健康フェスタ2017を 開催して



職員係長 和田 吉弘

5月20日(土)に今年も健康フェスタを開催しました。今年は雨の心配も無く、朝から天気に恵まれ、約500名の方にご参加いただきました。

今回のテーマは「つなげよう健康の輪!つながろう地域の輪!」です。地域の皆様の健康をサポートとともに親しまれる病院づくりを目指して、実際に国立病院機構高知病院に足を運んでいただいて、ご家族や友人と一緒に健康について考えたり、当院について知つていただこうという思いを反映させたテーマでした。

オープニングは、朝倉中学校吹奏楽部のみなさんによる演奏でした。来場された子どもも大人も聞き入ってしまうほどすばらしい演奏でした。内容も最新の曲や定番の曲まで幅広いジャンルを演奏していただき、楽しむことができました。

その後、各ブースによる体験コーナー等の催し物が始まりました。

アロママッサージ、手洗い体験、救急処置法・AED体験・お菓子で調剤体験、手術室見学ツアー、妊婦・高齢者体験などの定番コーナー、その他にも様々な検査ができるコーナーや気になるところを相談できる健康相談・栄養相談があり、参加者がたくさん押し寄せて、賑わいを見せました。

また、スタンプラリー企画でこれらの各コーナーを回るとスタンプがもらえ、大人5個、子ども3個でアイスクリンやフランクフルトと交換ができ、当日の暑さもあり、アイスクリンなどが子どもたちを中心に大人気でした。

外部からは、JAコスモスのみなさん、高知大学教育学部附属特別支援学校のみなさん、高知県立春野高等学校のみなさんも出店していただき、売り切れるほど大好評でした。

市民公開講座では「意外と身近にあるがんのお話」をテーマに3人の医師が、肺がん、泌尿器のがん、乳がんについてとても分かりやすく解説を行い、来場された皆様も真剣に聞いていました。とても評判の良い講演となりました。

今年も警察関係者や消防関係者など外部からもご協力を頂き、パトカー・白バイ・救急車の展示をしていただ

きました。制服体験や乗車体験も可能で、子ども、大人を問わず人気で、フェスタを盛り上げて頂きました。

他にも自転車・歩行シミュレーターを使用しての交通体験や、交通安全や防犯啓蒙に関する活動を行つていただき、地域の皆様に少しでもお役に立てたのではないかと思います。

その他に、起震車による揺れ体験もありました。実際の際の揺れを震度7まで体験できるとあって、かなりの方が関心をもって体験をしていただきました。地域の皆様の防災学習、訓練の一助となりました。

今年も、高知県のゆるキャラ「くろしおくん」が来てくださいました。くろしおくんが出てきた瞬間からくろしおくんの周りに人が集まり大好評でした。

エンディングは高知病院附属看護学校のみなさんによるコーラスに加えて、高知大学教育学部音楽系コースのみなさんにも生演奏して頂きました。看護学生によるコーラスでみなさまに看護学校のことを知って頂くこともでき、また高知大学のみなさまには演奏だけでなく楽器などについてトークもまじえた楽しいセッションをしていただきました。今年のフェスもいよいよ終了するなと思いながら、素晴らしい演奏を最後まで楽しむことができました。

来場者より頂きましたアンケートでは、とても楽しかったという意見が多かったです。また、「普段見ることができないものを違う目線から子どもに見せることができてとてもよかったです。」「とても明るくて、スタッフさんもやさしく、元気がでたのでうれしかった。」「病院内がきれい。皆さん明るくて気持ち良い」など、うれしいご意見をたくさんいただきました。

今後も地域の皆様のために「心のこもった医療」「地域に信頼される病院」となるようこれからも取り組んでいきたいと思います。

最後になりましたが、フェスタ開催にあたってご協力頂いた多くの皆様、また、ご来場して頂いた多くの方々に対して改めて厚く御礼申し上げます。

ありがとうございました。

# 平成29年度 「つくしまつり」



保育士 恩地 真由

5月27日(土)重症心身障害病棟の「つくしまつり」を開催致しました。お祭りの準備はまず利用者さんの意見を聞くところからはじまります。話し合いの結果、今年のテーマは『緑もきれいだ!みんなもいきいき!』と決まりました。ポスターやペナント作成の意見や、お店の希望などがたくさん上がりました。このような準備の期間は利用者さんの力が發揮出来、また他病棟の友だちと交流出来る楽しい時間でもあります。今年はどんなおまつりになるかな?とみんな顔がいきいきとしながらペナントやポスター制作に取り組みました。今年は病院イベントの健康フェスタでも小さいお友達にお花の制作をしてもらいペナントと一緒に作る機会も設けました。利用者さんと地域の方との合作となり、素敵な作品に仕上がりました。

当日は晴天に恵まれ、院長先生をはじめ事務部長、看護部長の挨拶から華々しくスタート!今年の模擬店は雑貨店や、アイスクリーム、親の会バザー、カレー、焼

きそば、綿菓子の他に、病院売店さんや作業所土佐さんの外部からの参加がありました。また、遊びのコーナーも新たに設けました。利用者・ご家族・職員等300名以上の参加があり、買い物を楽しめたり、ベンチに座ってゆっくり過ごされたり…とそれぞれお祭りを楽しんでいる様子でした。今回は13:00からイベントがあり、くろしおくん、ジョン万次郎、岩崎弥太郎のゆるキャラが遊びにやってきました。病棟にも遊びに来てくれ、嬉しそうな顔が見られました。最後はフィナーレで『フライデー☆プラス』さんの生演奏を楽しみました。最新曲から懐かしい曲まであり、みなさん手拍子や口ずさんだりして楽しめておりました。

開催にあたり、ボランティアに高知病院附属看護学校や高知大から多くの学生の参加をいただきました。また、職員OB・OGの皆様にも参加して頂き花を添えて頂きました。今回のつくしまつりのご参加、ご協力頂きましたみなさま本当にありがとうございました。



# DMAT訓練に参加して



外来係長 小松 信裕

企画課外来係長の小松です。6月4日に高知県総合防災訓練にDMATチームとして参加してきましたので、報告いたします。

メンバーは医師:松本大昌先生、看護師:深木智与さん、津野絵里花さん、薬剤師:西川祐貴さんに私の5名です。

深木さん以外の4名は日本DMATの資格を取って初めての訓練参加ということもあり、研修で習った行動手順を記憶から呼び覚ましたり、訓練に何を準備していけばよいかわからず前日まで大慌ての状態でした。経験者の深木さんがいなければどうなっていたことやら…。

訓練内容は南海トラフ地震を想定した室戸沖での救急災害医療でした。あき総合病院をDMAT活動拠点本部として立ち上げ、訓練に参加した各病院のDMATチームが各地で救急医療を展開する中、我々は災害によって道路が寸断されて孤立した室戸方面に向けて移動する室戸チームに割り振られました。移動手段は自衛隊ヘリで、20名ほどのDMAT隊員を乗せて香美市の陸上駐屯地を飛び立ち、室戸広域公園まで15分とあっという間の空の旅でした。ヘリに乗ったのは初めてのことでしたが、機内はプロペラ音が鳴り響き、付属の耳当てをつけていないとまともにいられない程でした。

室戸広域公園のグランドに着陸後は今年2月にオープンした屋内運動場を拠点本部としました。災害時の



拠点場所としての運用も想定されて設計されているとのことでした。

室戸チームはそこから「拠点本部」と「近くの救護所への応援」の二手にわかれ、我々国立高知DMATも拠点本部で伝達係や、救護所への応援等で各自が奮闘しておりました。今回はヘリ搬送の伝達確認、災害情報入力がメインだったので患者役は少なめでしたが、自衛隊ヘリの搭乗に始まり、救急患者の搬送経路の確認や情報の整理等貴重な体験をすることができました。

災害が起きないことが一番望ましいですが、こうした訓練に定期的に参加し、いざという時に行動できるよう備えていきたいと思います。



時刻	発	受	備考
12:39	本部立ち上げ		
12:40	国士高駅出発	本部	14:02 患者搬入(高知市立病院)
13:20	本部立上げ終了	本部	14:08 バタリ港到着
13:35	患者ヘリ到着(高知市立病院)	本部	
13:42	搬出搬入実習開始(高知市立病院)	本部	
13:45	搬出(安芸高田へ準備運動)	本部	
13:50	(搬出から30分)患者搬入(高知市立病院)	本部	
13:53	患者搬出(高知市立病院)	本部	
14:05	患者搬入(高知市立病院)	本部	
14:09	16:00 の着(川越出発)高知市立病院へ搬送	本部	
14:15	搬出(高知市立病院)	本部	
	14:30 安芸高田へ搬送	本部	
	14:30 安芸高田へ搬送	本部	
	14:30 安芸高田へ搬送	本部	

# 活性化推進委員会について



活性化推進委員会 副委員長 山田 茂晴

当院には、医療・患者サービスの向上、職場環境の改善、その取組みを行うことにより職員・病院が活性化すること、この3つを目的とする各職場の代表者で構成された活性化推進委員会という院長直轄の委員会があります。今回は、この委員会の最近の活動を紹介します。



【正面玄関前の緑化活動】

健康フェスタ開催前に多くの職員の協力を得て玄関前の清掃、ロータリーなどの雑草取りと花の植え付け。



【掲示物の整理・管理】

定期的にラウンドを行い、掲示期限の過ぎたものの撤去、見やすく掲示されているか、責任者が明示されているかなどをチェック。



【職員手作り作品の展示】

待合いロビーにあった店舗跡を、職員の手作り作品を展示し少しでも患者さんに楽しんでもらえるコーナーに転用。



【患者さんからのご意見による改善】

目的が分かりにくかったトイレ内にあるフックに「荷物掛」の表示。

今後も、既成概念にとらわれることなく自由な発想と創意工夫で職員・病院の活性化に取り組み、患者さんに満足していただける病院を目指したいと思います。

# 院内研修を開催して



経営企画室長 島村 嘉人

一般社団法人 日本血液製剤機構 事業戦略部 谷澤正明 様をお招きしてDPCデータ分析による院内研修会「平成30年度診療報酬改定の動向～国立高知病院はいかに対応するか 現状と課題～」を開催しました。

この研修の目的は、当院の一般病棟について10対1・急性期病棟として運営していることを踏まえ、同医療圏にあるDPC病院データをベンチマークして当院の特色を分析し、地域における当院の現状や課題を把握し、当院ができる患者確保へのアプローチを検討することにより平成30年度診療報酬改定に備えようというものです。この研修会は当院を取り巻く状況を多くの職員に知ってもらうきっかけにするため、幹部職員だけではなく一般職員(職種を問わず)も対象にして院内周知しました。その結果、医局、看護部、事務部以外にコメディカル部門の職員も含めて100名近くの職員が研修に参加しました。

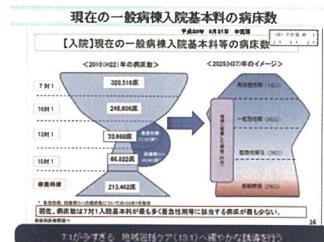
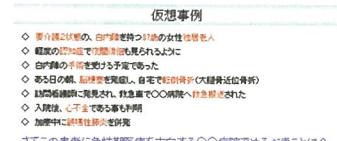
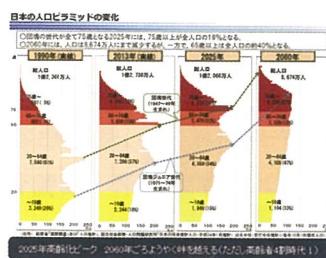
谷澤様の講義では、人口動向、入院患者への退院支援・連携について触れた後、認知症のある高齢者が在宅にて転倒骨折で救急入院したが、入院後心不全が判明、誤嚥性肺炎も併発したケースを例にして、従来の急性期に該当しない患者が激増することが予想さ

れるということを述べられ、こうした認知症を持つ患者の対応について認知症認定看護師の配置が課題ではないかというご提言をいただきました。また、当院規模(一般病床282床)であれば、外来患者確保も重要な課題であり、そのためには総合診療科の設置も検討すべきではないかとのご意見もいただきました。

DPCデータをベンチマークして効率性・複雑性による当院の現在位置、当院の強い診断群・弱い診断群、当院の地域医療指数の体制評価などからかなり踏み込んだ分析をしていく中で当院が検討し対応すべき課題が次第に浮き彫りになり、参加している一部の職員からは感嘆の声が漏れていました。

この研修を受けて、人口動向、疾病の変化、近隣病院の立ち位置等を考慮しながら、現状の課題に対して病院職員が一丸となって取り組むことで、当院の機能・役割を保持し、地域の状況にも柔軟化に応じながら良質な医療を継続して提供していくことが大切な運営の在り方であるということを学ばせていただきました。

最後にこのページをお借りして、業務ご多忙の中、当院内研修にてご講義をいただいた谷澤様に厚くお礼申し上げます。



## 診療科紹介

## 「泌尿器科」

泌尿器科医長 渡邊 裕修



泌尿器科では3名の常勤医師が泌尿器科全般の診療を行っています。私たちは主に下部尿路症状(オシッコが近い、漏れる、出が悪い、出るときに痛いなどの排尿に関連する症状)、前立腺ガンや膀胱ガンなどの悪性腫瘍、尿路結石症、慢性腎臓病などの診療を行っています。

排尿に関する様々な症状(特に頻尿、夜間頻尿、尿失禁など)で泌尿器科を受診される患者さまが沢山いらっしゃいますが、私たちは患者さまの訴えをよく聴いて、それに超音波検査による残尿量の測定や膀胱機能検査などを行って客観的な評価を加えて最良の治療を選択するようにしています。

泌尿器科系悪性腫瘍で最も多いのは前立腺ガンですが、患者さまの年齢、全身状態、病期を総合的に判断して手術・放射線治療・ホルモン療法の中から最適な治療を選択するようにしています。根治手術を行う場合は、侵襲の少ない腹腔鏡手術を第一選択としています。膀胱ガンの場合は大半は経尿道的手術で膀胱の温存が可能ですが、進行ガンで膀胱を摘出しなければな

らない場合も腹腔鏡による膀胱全摘を行っています。腎臓にできたガンに対しては小径(通常、4cm以下)の場合は腎臓の部分切除を腹腔鏡下に行い、出来るだけ腎臓の働きを温存するようにしています。

手術適応のある尿路結石に対しては、基本的には経尿道的尿路結石除去術(TUL)という内視鏡下レーザー碎石手術を行っています。大きな腎結石や多発結石の場合は、経皮的尿路結石除去術(PNL)という手術を行って結石の完全摘出を目指し頑張っています。

また、腎疾患の基幹病院としての役割を担うため慢性腎臓病(CKD)の診療や血液浄化療法(血液透析や腹膜透析など)も積極的に行っており、例年、10名前後の透析導入を行っています。

私たちは看護部やいろいろな部署と協力してチーム医療を実践しています。これからも地域の皆さん方に最新・最良の医療を提供できるよう努力を続けて行きたいと思っていますので、どうぞ宜しくお願い致します。



## 診療科紹介

# 「婦人科」

婦人科医長（婦人科科長） 木下 宏実



去年4月から婦人科で勤務させて頂いています。前任地は高知医療センターです。出身は徳島県で平成10年に高知市立市民病院に赴任したのが初の県外生活の始まりであり高知にきて早いものでもう18年目になります。その間に家族の人数が増え、子供が大きくなり県外に進学してまた減りと、人生の大きな変動期を高知で過ごさせて頂いています。土佐弁と阿波弁が混じった変な日本語をしゃべりますがご容赦ください。

専門分野は女性ヘルスケアです。聞きなれないと思いますが更年期障害、月経前緊張症など女性のホルモンの変動による疾患やメンタルヘルスなどに対応させて頂いています。また腹腔鏡下手術や悪性腫瘍の手術にも積極的に取り組んでおり、今まで以上に幅広く色々な患者様のニーズに対応して行きたいと考えております。色々な所でご迷惑をかけながら仕事をして行くと思いますがどうぞ宜しくお願ひいたします。



## 栄養管理室の活動

主任栄養士  
永野由香里



## NST(Nutrition Support Team:栄養サポートチーム)の活動について

NSTは栄養サポートチームとも呼ばれ、医師を中心とした様々な医療スタッフがそれぞれの専門性を生かし患者さんに関わり、栄養状態の維持および改善に最も適した栄養療法を検討、栄養状態を良好に保つことを目的とするチームのことをいいます。

当院では平成17年より病院長直属の組織としてNST委員会を発足、活動を開始しました。チアマンに統括診療部長、ディレクターに医師、サブディレクターに看護師・管理栄養士、メンバーは医師、薬剤師、看護師、管理栄養士、理学療法士、言語聴覚士、臨床検査技師、事務部で構成され今年で12年目になります。

施設認定としては、平成17年に日本静脈経腸栄養学会から、平成18年に日本栄養療法推進協議会からそれぞれNST稼働施設認定を受け、平成22年からは栄養

サポートチーム加算の算定を開始しています。

実際のNST活動では化学療法中の食欲低下、嚥下障害、術後、褥瘡のある患者さんなどに介入する事例が多く、摂取栄養量、身体計測、生化学検査値などから栄養評価を行い、今後の方針等について検討していきます。一般病棟においては週1回、重症心身障害児（者）病棟においては月に1回多職種によるカンファレンスを実施、褥瘡対策チームや緩和ケアチームなどとも連携をとり活動しています。

事例が多岐にわたるため、メンバーには様々な分野の専門的な知識が必要となることから院内NST勉強会では各職種が専門分野の立場から講義を行うなど知識の習得に努めています。今後もチーム医療の一員として患者さんを中心とした活動を行っていきたいと思います。

## 新採用職員研修に参加して

理学療法士 松岡 佐記



本年度4月から理学療法士として勤務させていただいている松岡佐記と申します。このたび岡山県で開催された平成29年度中国四国グループ内新採用職員研修会に参加させていただきました。この研修会は2日間行われ、1日目は接遇・基本マナー やグループワークを行いました。基本的な挨拶や言葉使いなど今までの自分を見直すことが出来、改めて挨拶は大切なことだと感じました。2日目の研修では各職種に分かれて専門的な研修が行われました。その中で私が一番印象に残った内容は、岡山医療センターの理学療法士 安川先生のリハビリテーションに必要なリスク管理～呼吸・循環器編～という講義です。なぜ呼吸リハビリテーションは早期から必要なのか。担当患者さんを任せられた時、最初に何をするべきなのか。実際にリハビリを行う際にはどういうリスクがあり注意しなければならないのか。これから理学療法士としてリハビリを行っていく中でリスク管理という部分はとても重要だと学び、注意するべきことだと感じました。

この研修会には懇親会があり他県の他職種の方との意見交換をする機会があり、自分自身の視野を広げることが出来ました。研修会で学んだことを活かし、理学療法士として成長できるようより一層努力していきます。

栄養士 小野 舞流



この度、岡山県にて4月21日～22日の2日間にわたって行われた「平成29年度中国四国グループ内新採用職員研修会」へ参加して参りました。約170名が参加した本研修では、初日に全職員対象の接遇・基本マナー研修と問題解決能力を鍛えるためのグループディスカッション、2日目には専門職ごとに講義や実践研修が行われました。

研修初日はマナー や問題解決能力といった新社会人として必要不可欠なことを学ぶことができ、大変勉強になりました。また、他職種・他病院の同期と意見交換を行えたことが自分自身にとってとても良い刺激になりました。

専門職ごとの研修では、栄養士の役割や業務といった基本的な部分だけでなく、食欲不振の患者様へのアプローチ方法や、ロールプレイングにてベッドサイド訪問時のテクニックを学ぶことができ、自分自身の知識不足を痛感したと共に、今後の課題も見つかり、大変有意義な時間であったと感じております。

当院で採用になり約3ヵ月が経とうとしておりますが、まだまだ未熟者で日々勉強の毎日です。このような機会を設けて頂いたことに感謝し、本研修会で学んだことを日々の業務に活かしながら、精一杯精進して参ります。

契約係 平野 愛奈



研修では、事務部門だけでなく、コメディカルや栄養など、様々な分野の同期に会うことができ、とても新鮮な気持ちになりました。研修内容として、事務部門に限らず全体での研修としては、社会人としてのマナー や、相手へ自分の伝えたい事を正確に伝えるためのスキルなど、これから働いていく上で必要な事を学ぶことができました。また、事務部の研修では、文書の書き方や、規程などについて学ぶことができました。上記のように知識を増やすための研修でもありました。初めて中四国グループの同期に会えて、少しではありますが、横との繋がりをつくることもできました。他の病院はどのような雰囲気なのか、また同期はどんな業務に携わっているのかを聞くことができ、刺激を受けました。

今後も、この研修で得たことを活かしながら、業務に取り組んでいきたいと思います。

感染管理室だより

## 健康フェスタ「感染対策は手洗いから」

感染管理認定看護師 河村ひとみ



5月20日の健康フェスタでは、今年も1階エレベーター横で「手洗い体験」を実施しました。「手洗い体験」コーナーでは、手に蛍光塗料を塗った後、石鹼と流水での手洗いを行い、その後ブラックライトにかざすと洗い残しの部分が光って見えるので、洗い残しを目で見て確認してもらうことができます。

今年は、212名の方が「手洗い体験」に参加してくれました。参加された方からは「びっくりした」「洗えてないね」など、洗い残しを確認して驚いたという感想が多数聞かれました。また、子供たちからは「保育所や小学校で習った」「手洗いの歌を覚えてやってる」など、日頃から気をつけている手洗いのお話を聞くことができました。

病院内だけでなく、家庭や学校での日常的な感染対策として手洗いは大変重要です。指の間や爪の先、掌のしわなどに洗い残しが多いと言われています。しっかり石鹼を泡立てて、洗いにくい所は意識的に洗うことが大切です。

手をきれいにする方法は、流水と石鹼による手洗いの他にアルコール手指消毒薬がありますが、病原体によってはアルコールが効きにくいものがあるので注意が必要です。ノロウイルスはエンペロープという脂質性の膜を持たないため、アルコールが効きにくいです。クロストリジウム・ディフィシルは、長期に抗菌薬を投与することにより腸内フローラが攪乱され、増殖、成長、毒素産生が起こり、感染症を引き起こすことがあります。クロストリジウム・ディフィシルは、アルコール存在下では「芽胞」という厚い殻を形成し、アルコールは効きません。どちらも、それらの病原体で汚染したままの手で接触することにより、汚染した手を介して感染が拡がりやすいと言われています。便や嘔吐物などを扱った後は、「アルコールが効かない病原体が手に付着しているかもしれない」と考えて、流水と石鹼でしっかりと手を洗うことが伝播予防のために重要です。

蛍光塗料を手全体に伸ばします



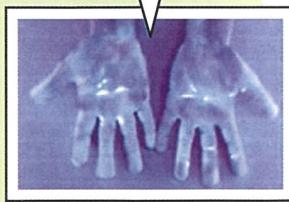
流水と石鹼で手を洗います



ブラックライトに手をかざすと…



白く光っている所がきちんと洗えていない所です！



## 医療安全管理室だより

# 医療安全定期ラウンドの取り組み



医療安全管理係長 山本 三恵

医療事故を起こさないための安全対策には、未然に防ぐ（事故が起こらないための予防策を実践）、同じ事故の発生を予防する（発生してしまった事故の原因を分析し、改善策を立て、実践することで予防を図る）の2通りがあります。

今までの医療安全活動では、後者の事故が発生した後に予防策を講じ、同事例の事故発生を減少させるという活動が主でした。そこで、前者の未然に防ぐ活動に主眼を置き、昨年度から医療安全管理係長による院内定期ラウンドを開始し1年が過ぎたので、ラウンド結果の報告をいたします。

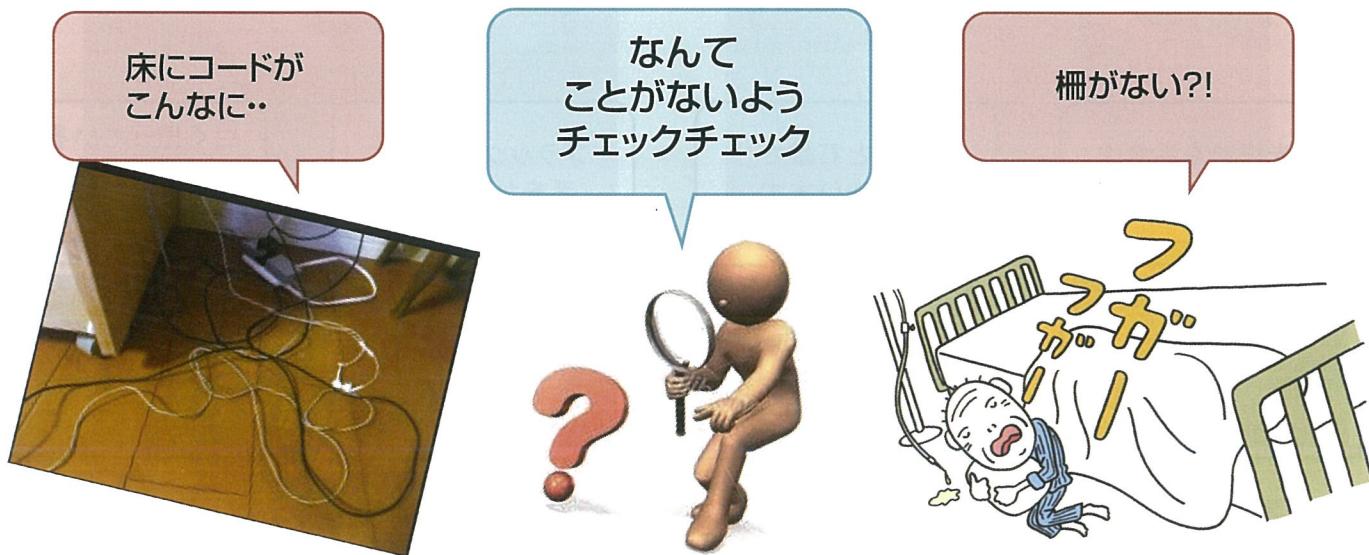
ラウンド場所・頻度は、病棟・外来等は年に1回、コメディカル部門は1～2ヶ月に1回で行いました。ラウンド時には、作成したラウンドチェック表に沿って、安全な環境作り、システム作りができているかを中心にチェックしました。さらに、ラウンドした部署で以前に発生した事故に対する予防策が継続できているかを確認しました。その結果、少しづつではありますが改善されていることがわかりました。

薬剤部では調剤時・監査時に指さし呼称ができるていなかったのですが、確認時に指さしができるス

タッフが現れました。検査室では、生理検査時の患者確認時に、患者に名乗ってもらい、ラベルと外来基本伝票の患者名で照合する際に指さし呼称を行えるようになりました。理学療法室では、コード類が床に垂れていたりしていましたが、整理されてきています。継続は力なりですね。

病棟においては、当初は病室外の部分についてラウンドチェックしていましたが、やはり、安全を確保は患者さんの周囲が一番重要と考え、全ての患者さんのベッド周囲の環境をチェックすることにしました。その結果、「コード類が垂れ下がっている」「患者さんの靴底が滑りやすい」「適正なベッド柵が使用されていない」「ポータブルトイレが遠い」などの問題が見つかり、その都度改善をしていただきました。

安全な医療活動は医療法で定められております。それに従い、安全な環境、意識改革が重要です。その一環として、ラウンドを開始しました。決してあら探しではありません。安全な医療活動を推進するためですので、皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。



## 地域医療連携室だより

看護師長 西本 美香

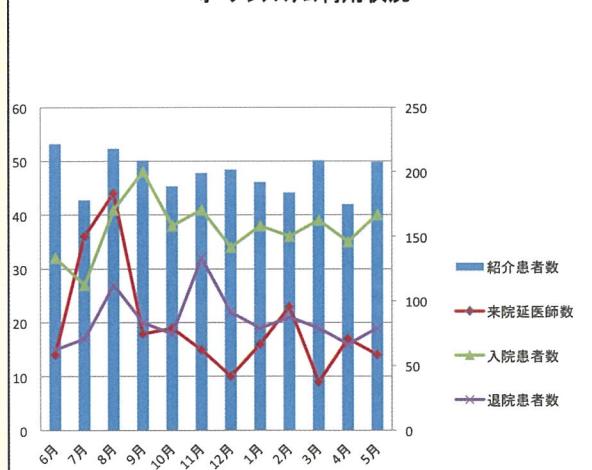


梅雨が明ければ、いよいよ夏本番がやってまいります。地域医療連携室は、夏の最大イベントである国立病院機構高知病院医療連携連絡会への準備を行っています。昨年は病院開院記念式典と合わせて開催したこともあり、院内外からの多数の参加者に驚きとともに、地域医療連携室に求められる役割を再認識しました。

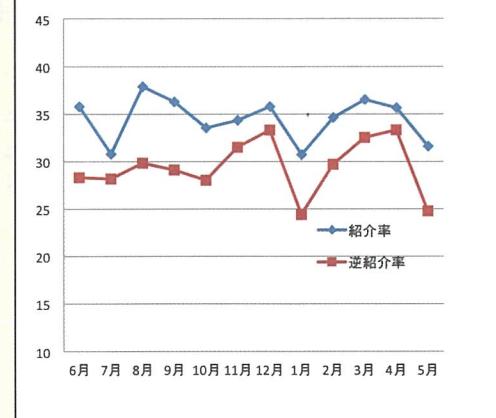
今年度は、当院の各診療科の紹介を中心に行いたいと計画しています。地域の医療機関の方々と直接お会いする機会となり、医療機関との連携強化を図るために行っています。地域医療連携室では、前方支援・後方支援と日々地域の医療機関と関わり、顔の見える連携の大切さを日々感じています。また今年は、各職員と協力して盛り上げていきたいと思います。

### ○高知病院地域連携等概況

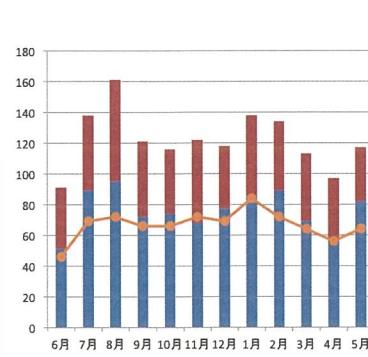
オープンシステム利用状況



紹介率・逆紹介率



救急搬送受診者数



看護学校だより

# 技術練習

第55期生 池沙佑香、久田朱莉

入学して約2ヶ月が経ち、私たち第55期生も徐々に学校生活に慣れてきました。

5月後半から看護技術の基本となる動作を確実に習得するため、技術練習を行っています。目標としては、1. 看護技術を科学的根拠に基づき実施できる。2. 模擬対象者に対して、基本動作を組み合わせ、効果的かつ効率的に実施できる。3. 模擬対象者に対して、倫理的配慮ができる。4. 看護技術に対して興味・関心を持ち、工夫、改善する事が出来る。5. 技術習得に対する学習姿勢について振り返る事が出来る。を目標に日々精進しています。



4～5人のグループに分かれ、それぞれグループごとに練習を行っています。グループ内で動き方や技術のコツなどを教えあいながら練習しています。また、分からぬ事は他のグループのメンバーに聞きながらクラスみんなで助け合いながら行っています。

初めてのことばかりで戸惑うことが多くありますが、毎日練習を積み重ね、上達していることも実感しています。



1年生は、座学での学習をもとに実際に実習室で患者役、看護師役に分かれ技術を習得しています。学生同士、「どうしたらもっとうまくできるのか」「本当にこれでよいのか」と机上での学習を振り返りながら、ほぼ毎日、朝の授業前・昼休み・放課後と練習しています。相手にとってよりよい方法を『考える』ことはとても難しい過程です。11月にある基礎看護学実習Ⅰにむけて日々『考えながら』練習を重ねてほしいと願っています。



1学年担任 教員 水口 沙紀

# 医療コンフリクト マネジメント研修会に 参加して



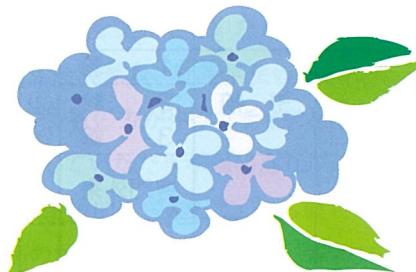
退院調整看護師

森本 朋代

私は、地域医療連携室の看護師として前方支援・退院支援や医療相談などを行っています。

6月3日・4日に開催された医療コンフリクトマネジメント研修会（基礎編）に参加させていただきました。高知県内の医療機関から医師・看護師・事務職など様々な職種の参加があり、研修では、医療対話推進者養成セミナー 基礎編として医療メディエーションの理論と技法について学ぶことができました。ロールプレイでは、医療者役・患者役・メディエーター役を体験することによってそれぞれの立場に立って考えることができ良い経験となりました。また、受け手の対応で話の内容がひろがったり、その後の方向性が変わってくるなど対話の仲介役の難しさを実感しました。

今後、この研修で学んだことを生かし、まずは自分にできること、相手に意識を集中する聞き方（傾聴）・共感という基礎からしっかりと行っていきたいと思います。そして医療者と患者・家族との間の中立的な立場で相手が本当に求めていることを引き出せるような関わりができるように努力していきたいと思います。



## 職員の異動

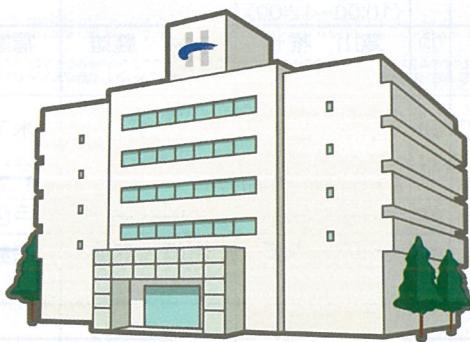
4月2日付～7月1日付の人事異動

### 退 職

消化器内科医師	岡田 泰行	4月30日付
理学療法士	大菊 覚	4月30日付
呼吸器内科専修医	今西 志乃	5月31日付
看護師	竹中 美咲	6月30日付
看護師	藤田 佳香	6月30日付

### 採 用

栄養士	小野 舞流	5月11日付
呼吸器内科医師	今西 志乃	6月1日付



# 外来診療担当医表

(平成29年7月1日現在)

■受付時間 8:30~11:00

■休診日 土曜・日曜・祝日・12月29日~1月3日

独立行政法人  
国立病院機構**高知病院**〒780-8077 高知県高知市朝倉西町1丁目2番25号  
TEL (088) 844-3111 FAX (088) 843-6385  
<http://www.hosp.go.jp/~kochihp>

診 療 科	区分・診察室番号		月	火	水	木	金
内 科	午 前	1 診	(12) 門田・町田(隔週)	田岡・岡野(隔週)	井上・今西	池田・篠原(隔週)	島山・矢薙(隔週)
		特別外来	(11) 松森(糖尿病)	岩原(血液)	松森(糖尿病)	岩原(内科)	松森(糖尿病)
	午 後	専門外来				化学物質過敏症(予約制)	
神 経 内 科			(17) 不定期(院内案内板に掲示しています。お電話にてお問い合わせ下さい。)				
呼吸器内科 アレルギー科	午 前	1 診	(8) 篠原 勉	大串 文隆 (受付10:00まで)	島山 暢生	大串 文隆 (紹介のみ)	岡野 義夫
		2 診	(6)		田岡 隆成	町田 久典	篠原 勉
	午 後	3 診	(12)		大串 文隆		門田 直樹
消化器内科	午 前		(9) 井上・栗原	池田 敬洋	板垣 達三	井上 修志	板垣 達三
循 環 器 内 科	午 前		(7) 山崎 隆志	西村 直己		山崎 隆志	
	午 後	専門外来				ペースメーカー(第2木曜)	
リウマチ科			(10) 松森 昭憲 (糖尿病も診察)		大串 文隆 (予約のみ)		松森 昭憲 (糖尿病も診察)
小 児 科	午 前	1 診	(1) 武市 知己	大石 尚文	武市 知己	小倉 英郎	大石 尚文
		2 診	(2) 大石 尚文		寺内 芳彦	武市 知己	高橋 芳夫
	午 後	専門外来	③ 寺内 芳彦 神経・アレルギー(第2月曜医大循環器)	アレルギー循環器	井上 和男 乳児健診	アレルギーNICUフォローアップ	神経・内分泌・腎臓乳児健診
外 科	午 前	予防接種	14:00~16:00 (予約制)	14:00~16:00 (予約制)	14:00~16:00 (予約制)	14:00~16:00 (予約制)	14:00~16:00 (予約制)
			吉川 雅登	福山 充俊 (乳がん検診も実施)	山崎 誠司	福山 充俊 (乳がん検診も実施)	花岡 潤
整 形 外 科	午 後	専門外来		福山 充俊 (乳腺外来)		日野・福山 (乳腺外来)	花岡 潤 (肝臓・胆道・膵臓外来)
			① 福田 昇司 骨粗鬆症(予約制) 13:00~15:00		小林 亨	福田 昇司	合田有一郎
脳神経外科	午 前	1 診	(8) 非常勤(10:00~12:00)		非常勤(9:00~11:00)		
呼吸器外科	午 前		(7)	先山 正二 日野 弘之		先山 正二 日野 弘之	坂本 晋一
小 児 外 科	午 前		(5)				
皮 膚 科	午 前		(13) 高橋 綾	高橋 綾	高橋 綾	高橋 綾	高橋 綾
泌 尿 器 科	午 前		(9) 渡邊 裕修	大河内寿夫	佐竹 宏文	渡邊 裕修	佐竹 宏文
			佐竹 宏文 (10:00~12:00)				大河内寿夫 (10:00~12:00)
産 科	午 前		(35) 滝川 稚也	福家 義雄	福家 義雄	小林 文子	予 約 制
	午 後		小林(超音波外来)(予約制)				
婦 人 科	午 前		(31) 木下 宏実	小林 文子 予宮頸がん検診(予約制) (10:30~11:30)	木下 宏実	滝川 稚也 予宮頸がん検診(予約制) (10:30~11:30)	木下 宏実
	午 後		福家(紹介患者)(予約制)		小林 文子(完全予約制)		思春期外来
眼 科	午 前		(23) 戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子
耳 鼻 咽 喉 科	午 前		(16) 岩崎・内藤	岩崎・内藤	岩崎・内藤	岩崎・内藤	岩崎・内藤
リハビリテーション科							
放 射 線 科			小松 幸久	塩田 博文	小松 幸久	塩田 博文	小松 幸久

※内科の1診は、月曜日から金曜日まで全て、医師1名担当の交代制となっています。

※市町村発行のクーポン券を利用される乳がん検診は、平日の午前中外科外来にて行っています。